

「バス・協同学習」と「総合的学習」の展開

第三十一回「全国バス学習研究会」（会長・木村幸夫東京都青梅市立道和中学校長）が一月二十七日に青梅市立第一中学校で開かれることを記念して、「バス学習・協同学習と総合的学習の展開」と題して特集を組むことにした。バス・協同学習の権威である中京大学の杉江修治教授と創価大学の関田一彦助教授の対談を中心に、実践報告などで構成した。

杉江 「バス学習とは何後半から出てきました。「バカ」という質問によく出会います。一般的には「斉指導の中にバスセッションという小集団の話し合いを入れる学習指導法」と説明されています。バスセッションは、かつてアイツバスという人が六六で六分間の話し合いが効果的だといふ、六六法という方式を提案したのが始まりと言われています。

戦後の生活力キヌラムを中心とした指導では、グループが頻繁に使われてきました。しかし、学力低下という批判から系統学習の考え方が主流となり、その中に小集団を有効に入れていく工夫が一九五〇年代の

後半から出てきました。「バス学習」はその流れにあるものです。「バス学習」は、その名前から連想されるような単なる技法ではなく、学習指導の理論なのだという理解をまずしてほしい。

また、「バス学習」は、実践者と教育心理学者が連携して作り上げてきたものに、一つの特徴がありま

す。経験から出発し、グループダイナミクスや認知心理学などの実証的な研究成果と照らし合わせ理論化を試みています。

具体的な指導の手法を積み重ねて、子供や教材に心して教師一人ひとりが主体的に、その都度判断をし

て、指導計画を立てることを要求します。ハウツーではないのです。

このような「バス学習」の立場が、その理解の難しさを感じさせる原因かも知れません。

指導は、「子供に教える」ことではなく、「子供が学ぶ手伝いをする」ことだといふ、指導の転換が必要だと言われています。このような原理の理解は、教師にとって大切なことです。「バス学習」の研究は、そのような有意義な原理を追求す

対談

指導の転換が必要

中京大学教授 杉江 修治

一貫性と統合性こそ



ることが課題だと考えてきました。教師の仕事は、技法を仕入れることではなく、原理を状況に応じて応用するといふ極めて創造的なところにあるのです。

関田 私が「バス」といふ言葉聞いたのは、大学生の頃です。公民館の婦人学級に実際に参加しましたが、木村幸夫先生の社会教育講習では、グループに分かれて話し合いをするときにバスの方式が使われたことがあります。

また、三井為友先生の授業では、「話し合いこそが学習なんだ。学び且つ教

える、教える学ぶ、というものが教育の本質である」とよく言われました。

このように、学生時代、グループで話し合うことの大切さを教えてくれた先生がいたわけですが、直接、「バズ学習」に関心を持ったのは、むしろアメリカの留学から帰って、研究者になってからです。

その後は、学校教育における「協同学習」(コホレティヴ・ラーニング)の方に傾斜していき、「バズ学習」は、その分野の一つ、すなわち実践方法の枠組みの中で押えています。「バズ学習」は「協同学習」の範疇に入るとも考えています。

杉江 その通りだと思います。外国で積み重ねられている「協同学習」の実践と研究は実に広範に行われています。例えば、「コンピュータと協同学習」「天学における協同学習」、また、学校内に限らず、キャンプのような活動でも、そこに協同の原理を導入した活動ならば「協同学習」の範疇に入れて、手を携えて実践研究をしています。「協同」と「学習」の関わりを図式が大き々広がっていることを知り、「協同学習」によって「バズ学習」も視野を広げることができたと思います。

なお、「バズ学習」の考え方は、「協同学習」の理論をさらに押し進めるのに非常に示唆的な内容を含んでいるように思っています。すなわち、「協同学習」は、グループダイナミクスにその理論の大きな部分を依拠しており、基本は協



大きいグループの力

創価大学助教授 関田 一彦

自分の学びを豊かに

同の動機づけに着目してその効用を説明しています。が、「バズ学習」は、さらに進んで、「信頼に交えられた人間関係」という視点を導入しているのです。また、教科指導と生徒指導の原理がはらはらであってはいけません。個と集団の関係をどうするかという問題も生じてきます。バズ学習が提言している学習指導の原理の一貫性と統合性の観点は、「協同学習」を進める上でも有効なものと考えているのですが。

関田 「バズ」は、もともと六六法も知りませんが、その後は、日本的に練り上げられた優れた実践であるといえます。昭和三十年代に出された「バズ」の出版物を読みても、違和感がなく、洗練された完成度があったように思っています。杉江 十年ほど前、イスラエルで「協同学習」の国際学会があったときに、時間半の時間をもらって

「バズ学習」の紹介をしたことがあります。「バズ学習」が世界に紹介されたのはそれが初めてだと思うのですが、外国の研究者や実践者に「あなたというバズ学習は、協同学習の実に適切なモデルだと評価されました。違和感がないのです。教育において「協同」の原理が、さまざま違いつつ文化を感えずに積極的に評価され、広がってきているというのは興味深いことです。集団主義的といわれ、集団活動が得意なはずの日本で、それがはらばらけられてきた。個を生かすという言葉を表面的にしか理解せず、個別習得ばかりを追求してきた「協同学習」の外国での関心の高まりを知ること、学習指導の改善の原理として、「協同」は、ちょうど適切な水俵のそれをのたいて感じを強く持つようになった。「バズ学習」が出てきた

時代というのは、アルトが『教育の過程』を世に問うたときと一致していません。塩田先生もアルトの編集した『学習のための学習』を翻訳されています。あの頃の学力観が一九八九年改訂の学習指導要領で「新学力観」と呼ばれたものの基礎でしょう。したがって、「バズ学習」が古くならざるは考えられない。「バズ学習」は早すぎた理論であり、今こそ現場の要求と一致してきているのではないか、言い過ぎではしょうか。

関田 私の場合は、二年ほど前にアメリカのミネソタ大学で、アメリカの「協同学習」の第一人者と言われるロジャート・ジョンソン、アーヴィッド・ジョンソンという兄弟の学者から約二年間学ばれました。この兄弟の学習は、人間をいかに育てるかにあいて、グループの力は、たいへん大きいものであることを強調していました。弟の

アーヴィッドさんが理論を構築し、アーサーと、兄のロジャートさんが実証していくという二人三脚で研究していました。

私がそこへ行った直接の動機は、コンピュータネットワークを活用した「共同学習」を理解する上で、オーソドックスな「協同学習」をきちんと学び直したかったからですが、もともと子供の学習の動機づけの分野の研究をしていたからでもあります。

特に、八〇年代は、ツールリリーが流行っていて、協同的な目標に向かって学習活動をする場合と競争的な目標に向かって学習活動をする場合、別の言葉でいうと、自分自身の学びを豊かにしていくのか、自分の成果を他人から評価されるためにするのか、という二つの方向性を見極めたかった。

どちらも一長一短はありますが、教育側からみると、自分の学びを豊かにし、協力し学んでいくという方向にゴールを設定することを基本にした方が望ましいと考えました。「協同学習」は、そういうことをはっきり指向していました。

杉江 さ、最近話題の「総合的学習」ですが、教科外の指導にそれほど時間を割いていいのかという懸念は持つつも、教育改革の一つの手がかりにはなるかと考えています。評価はしないという含みもあるようですが、指導があるところに評価がないというのはおかしい。

ただ、それは数字で表すようなこれほどの発想とは

なく、最近紹介されてきて
いるホトトギスオリの活用
なども考えるべきでしょ
う。

「バズ学習」では、一貫
性、統合性が必要と主張し
ています。このような「総
合的学習」での評価方法や
考え方の転換は、教科指導
などにも適用され、生かし
ていくということが望まし
い方向だと思います。ただ、
中学校などでは進路指導の
情報として相対評価を加え
る場合もあるでしょうが、
それは協同ではなく、競争
の原理に基づいた評価ですか
ら、主流となつてはいいな
い。

「総合的学習」では、「生
きる力」「豊かな心など、
態度的な目標を旨とするこ
に主眼がおかれています。
それらはしかし、社会的な
過程を通じて獲得される

「社会的知」を磨きまとも
のでなくてはならないとい
う認識も同時にあります。

そしてそれは、学級の仲
間との相互作用、グループ
活動を通して獲得されるも
のであり、したがって「総
合的学習」では、小集団の
活用がさまざまに試みられ
ることになるでしょう。

ただ、関田さんで紹介
になったジョンソンが言っ
ているのですが、「協同学
習」は容易ではない。グル
ープの話し合いをさせれ
ば、「協同学習」だと思っ
ていてはいけない。理論的
な学習を教師がしなければ
失敗します。戦後の生活力
リキュラムの時代、小集団
の話し合いを効果的に進め
るための理論は、ほとんど
ありませんでした。それが
成果をおけないという批判

に耐えられなかった原因の
一つだと思います。

「総合的学習」も「協同
学習」、「バズ学習」の勉
強をしながら、経験だけ
で進めようとする、教師
のロマンだけの、教えつ
もり、子供を活動させたつ
もりの教育になり、子供の
中に何が獲得されたのかわ
からないような時間になっ
てしまうかも知れません。

関田 アメリカの「協同
学習」は、コモンスタイル
運動の中でも強調され、バ
ーカーやテューイも積極的
に「協同学習」を推進して
きました。その意味で、教
育のオリジナルの部分で
は、よいものは「協同学習」
の中にあるのではないかと
思っています。「総合的学
習」のヒントは「協同学習」
の中にいくらでもあると言
ってもよいでしょう。

杉江 「協同学習」とい
っても、終始グループ学習
をするのではないのです
ね。教材に応じて一斉指導
や個別指導を組み合わせる
という工夫は当然必要です
し、効果的です。その判断
をするのが教師という仕事
の醍醐味ではないか。

多くの場合、教師が子供
や集団に与える「課題」に
問題があるのです。「課題」
は、言い換えれば子供に与
える仕事です。何をすれば
いいのかは課題がどれほど
明確にかかっています。

「まあ、これについて話
し合いなさい」というよう
な課題では、子供は何をし
たらいいのでしょうか。た
だ意見を言い合ふならばす
ぐに飽きてしまいます。雑
談も増えるでしょう。そこ
で、「まあ、これについて

グループの中で意見を出し
合い、おとて学級に発表さ
せるようにグループの意見
を一つにまとめなさい」と
か、「仲間の誰かに聞いても
答えられないように、全員が
理解できるように学び合
いなさい」といった指示をさ
れば、子供の話し合いは一
つの目標に向かって活発化
するはずですよ。

そのほかにも、課題の組
み立て、困難度など、配慮
すべきポイントはいくつも
あります。さらに、集団編
成の仕方、小集団での話し
合いの進め方など、協同の
効果的進め方の原理もぜひ
学んでいただきたいと思っ
たのです。そうすれば、積極
的な子供たちの姿、満足気
な彼らの表情、教師の予想
を超える発想により多く出
会えるようになると思いま
す。

関田 ジョンソンたちも
課題の設定をたいくせん重視
しています。彼らは、課題
設定も含めて、積極的に協
力し合う関係を創り出す任
組みを「協同学習」の基本
的構成要素の第一にあげて
います。

そのほかにも、個人の責
任の明確化、対面的相互作
用の促進、小集団技能の訓
練、協同活動をグループ内
で互いに評価し合う機会
の保証といった構成要素を考
えています。

これら五つの要素が十分
に配慮され、有効に組み込
まれた活動は協同の成果が
大きく不十分な実践では、
成果が上がりませんといわ
れます。このようにシステ
マティックに点検（反省）
できることも「協同学習」
の魅力の一つでしょう。

「バズ学習」を採り入れて

女子高校1年の数学の授業

望月和三郎 (東京都バズ学習
研究会事務局員)

すでに教材(単元)の学習計画は全員に渡されている。本時の学習内容は分かっているが、あちこちで私語が聞こえる。課題を配布しながら、「この課題は、今朝三時までかかって、やっと作り上げた。この授業に間に合わせるため、一番に学校へ来て印刷したんだ。」

この言葉で私語はたりとやみ、各自の学習が始まった。

「分からん。」

「この言葉は消えたのが、入学二ヶ月後くらいだった。こんな考えを出したら、恥ずかしい。笑われるのではないか。」

この思いがなくなり、自分の考えを出せるようになった。どんなことでも認めよう。受け入れよう。だれでも解決に近い方策を出せ

るんだ。こんな思いがそろそろさまた。

誰かが「分からん」と言くと、学級全員の集中力が弛んでくる。自分が分からんと思うとき、友だちも同じ気持ちで頑張っているんだ。頑張らなくっちゃと、自分を奮い立たせている様子が手に取るように分かる。

その緊張感が、グループの話し合いを活発にさせる。他のグループの邪魔にならないように、顔突き合わせ話している。さまざま考え方がグループ内に出る。用意された用紙にそれらが書き込まれている。

そして、発表。それを聞きながら、自分の考えを修正したり、さらに発展させている。

生徒たちの積極的な活動で授業が進められていく。一人ひとりが力を出し合っていて、課題解決に寄与しているんだという気持ちが、学級全員の信頼関係を醸し出し、粘りつきを強固にし、人間関係を高めていく。授業が終わったとき、学級全体に充実感がみなぎっている。

学力って何だろう？ 学び取る力だ。

この力は自分の属する集団構成員との協働によって磨かれていく。生徒たちと教師が二つはなりの時には話し合い、ぶつかり合い、時には解決の糸口を見つけて歓声をあげる。学力はこれらの営みさらに高まっていく。

生徒たちと教師とが協働して、楽しい授業を創りあげていく日々でありたい。



人間関係を基盤に

祝・第31回全国

◇東京都青梅市立第一中学校◇

全教育活動の実施へ

今、学校教育に求められるの考え方・方法が、大変有
ていることは様々である。効な教育手段であると考え
が、特に重要な課題の一つだ。

は、生徒の「生きる力」を 具体的には、道徳の授業
いかにはくむかである。に「バス学習」を取り入れ
そのためには、自分で課題 考えることにより、生徒が自己
を見つめ、その課題を解決 の考えを持つ場を設定し、
していく課題発見能力と課 それを仲間発表すること
題解決能力を持つこと、つ により、互いに認めあい一
まり主体的な思考力を身に 一人が主体的に取り組み
つけることが必要である。 ような授業を実施した。

二つ目は「社会性」を育 「バス学習」の基本理念
むことである。現在、自ら である「人間関係を基盤と
を律しながら他人と協調す した授業」を、ホラントイ
ることができない子供たち ア活動を題材として実施す
が増えていることが課題と ることにより、相手の立場
なっている。これは、子供 になって物事を考え、発表
たちの生活体験・社会体験 を通して仲間の中に写し出
が非常に乏しくなり、社会 された自分自身を見つめ直
性が欠如しているからであ し、自分の良さを知るきつ
り。
かけとした。

私は、このような課題の 「バス学習」を取り入れ
解決に対して、「バス学習」 た授業は、道徳以外にも、



保健体育でも導入している

私の担当教科である保健体 育の、球技・集団行動・器
械体操の分野において実施 した。さらに、学級活動に
も取り入れたが、いずれも 生徒一人一人が興味を持っ
て生き生きと学習し、技能

も向上することを確認し 係を基盤とする指導法を、り、社会生活に適応してい
た。 道徳に限らず全教育活動に ける人間の育成につながる
た。 おいても実施していくこと する。

いくつかのルールにした が今後ますます重要になる また、このことは近年学
が、自らの自由な発想を と考える。生徒相互による 校教育の課題となっている
もとの仲間と協力して学ぶ 働きかけや協力によって、「いじめ」や「不登校」の
なかで、生徒が持っている 個々の生徒が意欲や、技能 解決につながるかと私は信じ
パワーとエネルギーを十分 を高め、主体的な思考力を ている。
発揮している姿をたのもし 身につけることは、「生き (塚水尾祐文教諭)

「相談」で自信がつく

◇東京都練馬区立光が丘第八小学校◇

個人と集団のよさを

本校(東京都練馬区立光 てるくるであろう。六年間を 開できないかと、単元を通
が丘第八小学校)は、開校 見通しての教育実践という して「個人解決のよさを生
十二年目である。区内六十 積み上げてきた伝統を再度 かけた学習」と「集団解決
九校の中で三校しかないオ 見直し、本校としての特徴 のよさを生かした学習」を
ープンスクールの一つであ をもった教育活動を進めた 組み合わせた学習の工夫を
る。このまま子供の数が減 いて考えた。 考えて実践した。

少していけば、施設が他の 所で小規模校であるこ 個人解決のよさを生かし
内容のものとの併用、学校 と、オープンスクールであ た学習とは、一般的に言わ
の統廃合の問題も当然起き ることを生かした学習が展 れている問題解決の学習過

白バズ学習研究大会特集号

たことは、分からないときは友だちに教えてもらったり、相談できるのが良かったです。自信がないとき、相談するとすこく自信がきます」(荒木正志校長)

程を踏む方法である。相談をし、教えたい者はわに考えた。指導者サイドと

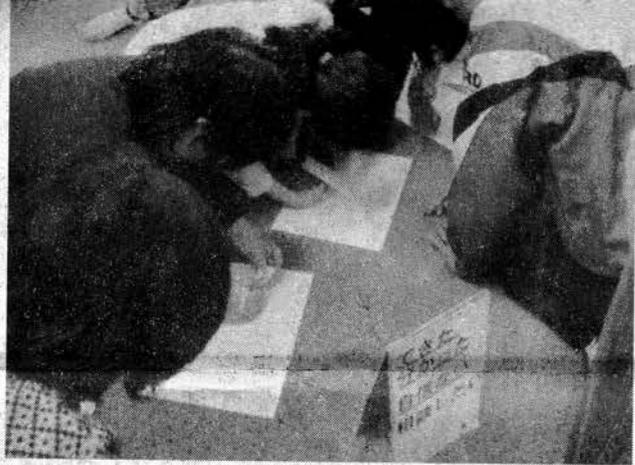
集団解決のよさを生かし、かららない子に教える、もうしては、①中間指導の中でた学習とは、より近い既習、少し一人で考えたい者は考五十数名を全員評価できなを生かして解決していく場、えるなどのコースを選択すくてもよい。②学習後ワ面で用いる方法である。こる。自分の課題が解決したクシートと併せて評価をしていく。③それでも評価できない子供は次時のときに優先的に評価していく。単元を通して積み重ねていけば、それなりに子供の変化がつかめると考えた。

評価の工夫は、次のよう

子供サイドとしては、自己評価に感想を書く欄とワクワク度の記入欄をつくった。ワクワク度は、学習時間の経過によってワクワク度などの位置にくるか記入するものである。

学習を進める中で、類推、多様に考えることの大切さを指導したり、学習のルールを作っていた。学習終了後のポストテストでは一応満足できる成果が上がったと考える。子供の感想を一つ載せておく。

友だちから教えてもらった
「私は、最初全然分から



生き生きと課題に

◇東京都杉並区立四宮小学校◇

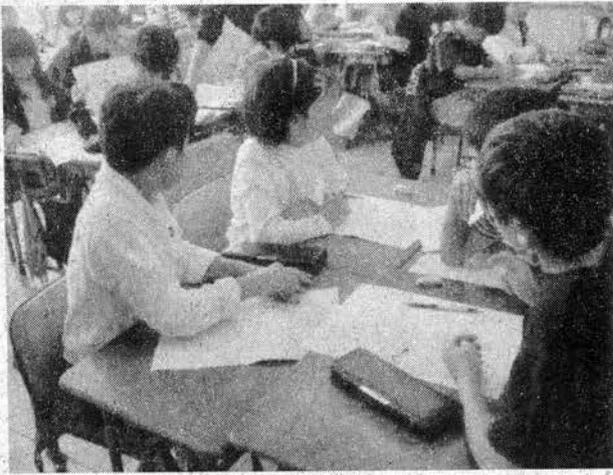
クリーン大作戦しよう

本校(東京都杉並区立四宮小学校)の児童は、日常「清掃活動」を無意識のうちに行っている。多くの児童は、やらされているという思いが強い。清掃をする意義を児童に意識化するために、次のような総合的学習の学習計画を立てて実践した。対象学年は第三学年(男子十九名、女子十三名)。

- ①なぜ、掃除をするのだろうか(学級活動・一時間)
- ②どのように、掃除したらよいのだろうか(道徳・一時間)
- ③汚いところを探検しよう(学級活動・一時間)
- ④探検して、もっと知りたいこと思ったことを話そう(学級活動・一時間)
- ⑤知りたいと思ったことを調べよう(理科・社会科)
- ⑥調べてわかったこと、自分でこれからしようと思ふことを発表しよう(国語)

学習を取り入れるために、次のような工夫をした。

- 一、学習グループ編成上①相互協力関係のできるグループ②異質のメンバー③相互信頼関係があるグループ
- 二、学習課題の工夫異質グループであるため、依存関係にならないように一人ひとりが興味関心に応じた課題を選択する。
- 三、役割を明確にするグループの中で一人一役(司会、記録、連絡、観察)を分担し、グループ内でお



不思議に思ったことも学習

互いに認め合う気持ちを育める勉強は、とても面白か
てるとともに、個人の責任、った。ゴミ中継所へ聞きに
リーダーシップの分担をす 行ったら、親切に話を聞き
てくれて、ほおき草の話を たくさんのことが分かり、
良い本ができた。

④一人で考えることは、
難しいけれど、グループで
教えあったり、協力すると

⑤司会係だったので、先
生が今日の学習について話
しているときは、一生懸命
聞いてみんなにしっかりと
伝えられた。

⑥記録係だったので、み
んなで話したことをまとめ
て発表できるようにがんば
った。

⑦書くのが、遅い僕を班
のみんなが励ましてくれた
のが嬉しかった。

⑧今後の実践計画として
は、三学期は、暮れの大掃
除で出た大量のゴミを思い
出し、ゴミの行方やゴミの
分別などについて不思議に
思ったことや調べたいと思
ったことについて協同学習
を取り入れ学習を進めてい
く予定である。

(望月保美教諭)

事務局(望月和三郎宅)
〒189-0012東京都東村山市
萩山町三一二二二 ☎
四二(三九三)二三〇八。